

A vertical calligraphic work by Wang Meng. The central focus is two large, bold characters, '雨' (rain) and '風' (wind), written in a highly expressive, cursive style. The characters are surrounded by a landscape scene. To the left, there are stylized mountains and a small boat. To the right, there are more mountains and a small boat. The background is filled with fine, textured lines, suggesting mist or rain. The entire work is enclosed in a simple rectangular border.

編集協力
小・中学校長会



西会津町教育委員会

教育長 高田 和豊

私は二十四年間、民間企業で人工知能を研究し、うち三年間は米国MITメディアラボで創造性教育に携わりました。MITで出会ったシーモア・パパートの構築主義は、自分の興味を軸に、プログラミング等をツールとして試行錯誤から知識を得る学びです。例えば、思いどおりの色を出そうと照明を調整するうちに光の三原色が身に付くなど、認知科学の記号接地の観点からも理にかなう教育法です。以来、軸足を教育に移し、令和四年に西会津中学校でIoT照明の探究授業を行ったご縁から、こ

の四月に教育長を拝命しました。学びに関わる脳の働きに「記憶」と「思考」があります。一人一台の端末が行き渡り、インターネットが記憶を、AIが思考を支える社会基盤となった今、最適な学びとは何かが問われています。考えて作るまで伴走するAIの出現は、西会津町では「作る学び」の好機と見ています。

思考には事前知識が必要です。一方、作りたいものが先にある学び方もあります。この二つの往復で学びをデザインする、それが「作る学び」です。二〇三〇年か

ら、主体的・対話的で深い学びは、情報や探究学習を巻き込む形で加速します。自分の好きを探究する構築主義は、教科教育と探究的な学びをつなぐ、今に適した学びだと考えます。そのゴールは、次期学習指導要領が目指す「自立した学習者」です。

先日の教員研修では、AIを使ったカラー照明の活用授業を考えていただきました。国語の「やまなし」の心情を光で表すなど、想像を超える案が次々と出て大変驚きました。労働時間、不登校、教員不足など大きな課題への対応が優先されますが、先生方の創造性こそが教育の未来だと信じ、私自身も先頭に立って探究的な学びへのシフトを進めてまいります。

今後、学習履歴がAIを活用しながら蓄積されることで、さらに個別最適な学びは深まるでしょう。どのような履歴を残せば学びが豊かなのか。目を配りながら、「作る学び」をつくってまいります。

前期の所長（管理）訪問では、五十九校を訪問させていただきました。（後期は二十四校を予定）

授業参観では、子どもの「問い」を引き出し、子ども同士の学び合いを意識しながら、教師が発問を工夫し、授業をコーディネートする姿を数多く目にすることができました。その一方で、教師が話すすぎる授業が、まだまだ散見されるのも事実です。

教師がこれまで築き上げた「授業観」を転換させることは、容易なことではありませんが、「主體的・対話的で深い学び」を実現させるために、教師が「話す」授業から、教師が「みる」「さく」「つなぐ」授業への転換を図ることが、本県における喫緊の課題です。各校において、授業改善の取組が、より一層活性化されるようお願いいたします。

管理面では、管理重点項目である「①働き方改革の推進」「②学校全体の教育力向上」「③不祥事の根絶」について、各校の創意工夫を凝らした取組を共有することができました。また、不祥事の根絶に向けた所長と教職員との対話からは、教職員一人一人に不祥事根絶の意識が浸透し、職員室における風通しのよさや職場におけるセーフティネットの機能が生かされている様子を肌で感じることができました。

今年度は、域内に八十四名の新規採用教員を配置しました。校務分掌において、若手教員と経験豊富な教員を意図的に組ませるなど、OJTを生かした人材育成に取り組む学校が多くなっております。今後も学校の組織力を生かした取組をお願いいたします。

会津教育事務所では、域内の課題解決のために、これからも参考となる情報の提供や研修会の充実などに努めながら、引き続き各学校を支援してまいります。

令和八年度前半を振り返って

令和8年度 会津教育事務所 指導の重点【後期】

第7次福島県総合教育計画

令和8年度学びの変革推進プラン

会津の強み【令和8年度の学校訪問や各校の学力向上の取組、各種研修会協議から】

- 1 「授業改善グランドデザイン」や「学びの変革」授業デザイン」を活用しながら、主体的・対話的で深い学びの視点に基づいて、教職員が一丸となって授業改善に取り組んでいる学校が増えている。また、単元づくりを基盤とした授業実践により、資質・能力を身に付けた児童生徒の姿を教師が明確にもつことができるようになりつつある。
- 2 生徒指導の機能やユニバーサルデザインの視点を生かした授業づくりにより、すべての児童生徒の心理的安全性を高める授業や「分かる・できる」授業を目指した取組が増えている。
- 3 各中学校区内における学校間の連携体制・協力体制が確立しており、学力向上対策や生徒指導対策について、継続的な指導・支援の推進が図られている。また、学校運営協議会（コミュニティ・スクール）等を中心に、地域との連携推進が図られている。

会津の課題【令和8年度全国学力・学習状況調査結果、学校訪問等から】

- 1 全国学力・学習状況調査において全国平均正答率と比較すると、小・中学校ともに各教科において平均正答率が下回っている状況にある。各校における結果分析と手立ての検討が大切である。
- 2 「深い学び」の充実に向けた授業改善が必要である。教師が「話す」授業から「みる」「さく」「つなぐ」授業へと授業観を転換し、「個別最適化された学び」「協働的な学び」「探究的な学び」により、資質・能力を確実に育成していくことが求められる。
- 3 不登校児童生徒が年々増加傾向にあり、1,000人あたりの出現率が全国平均や県平均を上回る状況が見られる。授業をはじめとする学校教育全体の魅力化や、一人一人の児童生徒への寄り添い、関係機関との連携などのさらなる促進が求められる。

学びをつなぐ・育ちをつなぐ会津の教育

確かな学力

1 主体的・対話的で深い学びの実現

- 「学びの変革」授業デザインに基づく授業づくり

- ① 「観」をとらえ直す
- ② 創意工夫のある単元「題材」づくり
- ③ 授業段階の重点「学び出す」「学び合う」「学びとる」
- ④ 「学び続ける」ための視点、自己マネジメント力の育成



- 「指導の重点（小・中学校教育版）」の活用

・各教科等の授業の設計・実施・評価の工夫

2 学習の連続性をもたせる基盤づくり

- 「家庭学習スタンダード」に基づく

自己マネジメント力の育成

- ① 授業の学習内容の定着を図る家庭学習
- ② 家庭学習（復習、予習）を効果的に活用した授業の実施



3 学力向上対策の組織的な推進による授業改善

- 全国学力・学習状況調査、ふくしま学力調査の結果分析と活用（授業改善グランドデザイン参照）
- 客観的データに基づく実効性ある改善策の実施
- 教師が「話す」授業から、教師が「みる」「さく」「つなぐ」授業への転換（授業改善グランドデザイン参照）
- 「ふくしま活用力育成シート」「キビタンシート」の活用
- ICT機器等を効果的に活用した学びの充実



4 カリキュラム・マネジメントの充実

- 育成を目指す資質・能力の明確化と教育課程の意義の共有
- 教科等横断的な視点による教育計画の作成と実施

5 教科の指導と生徒指導の一体化

- ① 自己存在感の感受 ② 共感的な人間関係の育成
- ③ 自己決定の場 ④ 安全・安心な「居場所づくり」



居場所づくりと絆づくり

1 不登校の未然防止・早期発見・早期対応

- 「ふくしまサポートガイド」の活用

- ① 組織による「居場所づくり」と児童生徒による「絆づくり」を中心とした心理的安全性の確保
- ② PDCAサイクルによる援助
- ③ より機能的な関係機関との連携及び校種間連携
- ④ 「特別な教室」設置やICT活用による学習機会の確保
- ⑤ 誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策（COLOプラ）に基づいた「チーム学校」による支援



2 いじめ見逃しゼロ

- ① 組織による積極的な認知と早期対応・解決
- ② アンケート調査や面談等による状況把握とチーム学校による具体的対応

3 情報モラル教育の充実

- 「ふくしま情報モラル診断」を活用したSNS利活用の適正な考え方と態度の育成

- ① アンケートによる児童生徒の実態把握
- ② 回答の分析による問題行動や課題の発見



4 心に響く道徳教育

- ① 学校、家庭、地域が一体となった道徳教育の推進
- ② 児童生徒が自己を見つめ考えを深める授業づくり

共に学び、共に生きる教育

1 校内支援体制の充実

- コーディネートハンドブック【2025年版】の活用

- ① 特別支援教育コーディネーターを核としたケース会議や校内研修の充実
- ② 児童生徒、保護者との合意形成に基づく「個別的教育支援計画」や「個別の指導計画」の作成と活用、引継ぎ
- ③ 上記計画を活用した交流及び共同学習の充実
- ④ 教育的ニーズの整理の仕方



○ 研修パッケージの活用（県特別支援教育センター）

2 ユニバーサルデザインの視点による授業づくり

- ・教室の環境整備やつまずきを想定した手立ての工夫
- ・認め合い、助け合い、高め合う学級の支持的風土づくり

健やかな体

1 体力向上と健康推進

- オンライン版「自分手帳」の活用による健康マネジメント能力の育成

- ① 体力向上推進計画の見直しと評価・改善
- ② 適切な運動量が確保された息も心も弾む授業の工夫

2 教育活動全体による食育の推進

- ① 肥満防止などの望ましい食習慣の育成
- ② 栄養教諭等の専門家派遣事業の活用



育ちをつなぐ学び

1 キャリア教育の推進

- 「キャリア・パスポート」の活用

- ① 成長の振り返りや将来の生き方を考える学びの充実
- ② 学年・校種間・高等学校への引継ぎと実践的な活用

2 幼保小連携の推進

- ① 「福島県幼児教育振興指針」に基づく、小中学校につながる豊かな遊びを通した学びの充実、非認知能力の育成
- ② 幼小の架け橋期に係るカリキュラム作成
- ③ 家庭、地域、関係機関との連携の充実

総務社会教育課

～社会教育関係事業の紹介～

令和8年度前期に会津教育事務所で行った社会教育関係事業の取組を紹介します。

1 読書活動支援者育成事業会津地区研修会

7月31日（金）に福島県ハイテクプラザ会津若松技術支援センターにおいて、読書ボランティアや図書館支援員、教員等、計57名の皆様に参加いただきました。

研修会では、大熊町立学び舎ゆめの森校長の志賀仁氏による講話「学校図書館の新たなかたち」と、「心に虹のおはなし会」代表の佐藤敏子氏はじめ会員による読み聞かせの実演が行われました。参加された皆様からは、「学校の先生方、司書の方、地域の方々みんなで子どもたちを育てていることが伝わりました。」「大人でも楽しめるプログラム（読み聞かせ）は、いろいろ参考にさせていただく点があり良かったです。」などの声をいただきました。本研修を通して、子どもたちへの読書推進活動がさらに活性化することを期待しています。



『「心に虹のおはなし会」による読み聞かせの実演』

2 地域連携担当教職員等研修会（会津地区）

8月17日（月）に会津若松市北会津支所ビカリンホールにおいて会津域内の教職員や教育委員会関係者、計44名の皆様に参加いただきました。

研修会では、一般社団法人とちぎ市民協働研究会代表理事の廣瀬隆人氏による講義・演習「学校を核とした地域づくり・地域とともにある学校」が行われました。参加された皆様からは、「廣瀬氏のこれまでの経験や全国の具体的な事例を紹介していただく中で、自分の学校、地域でどのような活動をする事ができるか、イメージを膨らませることができました。」などの声をいただきました。本研修会を通じて、地域と学校が連携し、学校を核とした地域づくりがさらに推進されればと考えます。



「地域連携教職員等研修会協議の様子」

3 ビブリオバトル福島県大会会津地区予選会

8月29日（土）に会津若松市文化センターで行われました。予選会では、中学生8名、高校生4名のバトラーが、おすすめの本を5分の持ち時間で紹介しました。紹介本や結果等については、ぜひ会津教育事務所HP「読書活動」をご覧ください。



「会津教育事務所HP」

我がまちからの情報発信

北塩原村教育委員会

「地域をつなぐ、きっかけづくりの場へ」

～ふらっと、きてみっせ～

北塩原村公民館では、人口減少や少子高齢化が進む中で、公民館が単に講座を開催する場にとどまらず、地域の人と人、人と学びをつなぐ拠点となることを目指し、今年度から「ふらっと事業」に取り組んでいます。

当村では、地域活動の担い手不足や講師、協力者となる人材の掘り起こし、世代を超えた交流機会の減少などが課題となっています。一方で、村内には、ものづくり、自然体験、農業、芸能など、様々な得意分野や経験を持つ方々がいます。そこで、まずは住民が気軽にふらっと公民館へ足を運び、「来てみる」「話してみる」「少し関わってみる」をコンセプトとし、ふらっと来て参加できる事業として始めました。

これまで、あおぞら図書室やミニキャンプ体験、昭和レコードを楽しむ交流会、水鉄砲大会、科学体験、夏休みの宿題スペースなどを実施し、子どもから高齢者まで多様な世代が参加してくれました。裏磐梯から新潟に帰るバイカー20数人がふらっと立ち寄ったこともありました。

ふらっと事業では、参加者として楽しむだけでなく、受付や見守り、写真記録、飲み物の提供、体験活動の補助など、住民が無理のない範囲で関われる小さな役割を大切にしています。こうした関わりを通して、公民館が地域人材を把握し、次の学びや活動につなげる仕組みづくりを進め

ています。

ふらっと事業は、完成された講座を提供するのではなく、住民の声や得意なことをもとに、みんなで育てていく事業です。今後は、ふらっとサポーターの仕組みづくりや子育て、防災、健康、スポーツ、文化活動などとの連携を進め、日常の交流が地域の支え合いにつながる公民館活動を展開していきます。小さな「ふらっと」からスタートし、北塩原村らしい学びと地域づくりの輪を広げ、住民それぞれの想いをつなげていきたいと考えています。



「ミニキャンプ体験」

各学校の特色ある取組紹介

チャレンジいっぱいの学校・楽校・合校づくり

柳津町立柳津小学校

「ドリーム&チャレンジ!」を合言葉に「学校(学ぶ)」「楽校(楽しむ)」「合校(認め合い、支え合う)」三つの学校づくりに取り組んでいます。その一端を紹介します。

〈校長室暗唱チャレンジ〉

校長が課題を出し、子どもたちが家庭などで練習し、校長室で暗唱にチャレンジします。合格証を手にした子どもの表情は晴れやかで達成感に満ちています。小さな成功体験を重ねる度に、次の課題にチャレンジしようとする意欲が高まっています。

〈仲間と自分アピール発表会〉

一人またはペア、グループで音楽や運動、ダンス、手品、お笑いなど、自分の好きなことや得意なことを思い思いにステージで発表します。発表した子どもたちは、仲間や先生方

から温かい拍手や声援を受け、充実感を味わっています。

〈チャレンジ100!〉

「本を100冊読む」「自主学習を100ページやる」「校庭を100周走る」など、全校生が100を意識してチャレンジする取組です。「100」をやり切った達成感は格別です。



「仲間と自分アピール発表会」

「つながり」を大切にしたい学校づくりを目指して

会津美里町立宮川小学校

本校は、永井野小・尾岐小・旭小・藤川小の4校が統合し、19年目を迎えた学校です。会津美里町では、令和6年度から小中一貫教育を推進しており、「高田学園」として、子ども園や中学校とのつながり、地域とのつながり、子どもの学びのつながりを大切にしながら、生活科・総合的な学習の時間を核とした実践研究に取り組んでいます。

1 震災学習から郷土愛へ(第5学年)

5年生は、いわき市での震災関連施設や被災地の見学、語り部の講話等を通して、被災した人々の努力と力強さを感じることができました。この学習から、自分たちの地域に目を向け、伝統行事の保存・継承に取り組んでいる方の講話を聞いたり、行事に参加したりすることを通して、地域への思いを膨らませ、自分たちもできることを見いだそうとしています。



「5年 稲の虫送りに参加」

2 未来のまちづくりを考える(第6学年)

修学旅行で訪れた仙台市との違いから、「将来の会津美里町はどうなるのか」という思いを膨らませた6年生。役場のまちづくり政策課の方々との座談会を行い、互いの考えを伝え合いました。今後は、子ども支局員として、まちのよさを広めるためのPR活動等に取り組んでいきます。

このように、各学年とも地域から学ぶ学習を積極的に行っています。この学びの根底にあるのが、日常的な地域とのつながりです。「宮川チームズ」という地域の方々による応援団があり、全校給食の配膳や畑の世話などのために、毎日来ていただいています。こうしたつながりを大切にしながら、その中で子どもたちが成長し、地域への思いを膨らませる学習を、これからも展開してまいります。



「6年 町職員との座談会」

「大成」の精神

会津若松市立第三中学校

「大成」とは、本校の校是です。意味としては、「知識や理論ばかりの人になることなく、それを実践できる人間形成が大切」ということであり、本校ならではの精神です。

この大成の精神を大切に、本校では以下の取組を行っています。

1 校内での教職員研修

学びを支える集団作りに着目し、毎年、1学期が始まる前に、教職員の研修として、グループエンカウターの研修を教職員全員で行っています。研修で学んだことを基に、学期のはじめに各学級で集団作りを行うなど、授業中における意見や考えを言い合える環境を整えるよう取り組んでいます。

2 スペシャルサポートルーム(SSR)の活用

教室に入ることが困難な生徒が、校内で学習できるよう、SSRを設置しています。SSRを利用する生徒にとっては、通常の教室よりも安心して学べる環境になっています。

3 チーム担任制の試み

今年度から、1・2学年において、チーム担任制を導入しています。導入した学年には、担任のカラーに染まる学級ではな

く、生徒自らが、学級を作り出すことを意識させています。この新たな取組によって、これまで以上に生徒たちがこの学校で学びたいと思える学校にしたいと考えています。

これらの取組を通して、生徒の自己肯定感を高めつつ、集団での学びを大切にし、生徒一人一人の成長を支援していきたいと思っています。



「教職員研修の様子(グループエンカウター)」